



おーい！くじらぐも

Vol.34 2024年（令和6年）4月号

発行人：(福)健翔会 相談支援センターくじらぐも

所在地：埼玉県行田市小見1141番地1

TEL:048-580-3634 FAX:048-554-8814

MAIL:kujiragumo@kenshokai.net

発行責任者：くじらぐも センター長 細川竜太

福祉サービスを利用するためには「くじらぐも」が作る『サービス等利用計画』が必要です。

「くじらぐも」は障害者総合支援法により、障害者・障害児に対し相談支援事業を提供する健翔会の第4号事業所です。

福祉サービスに限らず、多様な働き方などをご提案・ご紹介できます。お気軽にご相談ください。



2012年公開の映画「最強のふたり」をご紹介します。車イス生活を送る富豪と、介護役として雇われた刑務所を出たばかりの黒人青年。まったく共通点のない2人は衝突しあいながらも互いを受け入れ友情を育んでいきます。



なぜ、彼は介護の経験もない黒人青年を雇ったのか？それは・・・応募者の中で唯一、車イスの主人公を特別扱いしなかったからです。



支援者として忘れてはならない「対等な目線」ぜひ、見つけてご覧になり、温かい気持ちになってください。

『言葉の力と視覚の凄さ ～入浴剤を眺めて感じたこと～』

私事ですが、入浴剤が大好きで毎日浴槽に入れて楽しんでます。入浴剤もたくさんの種類があり、色や香りも様々です。私が好んで使っているのは、全国各地の温泉の名前が入ったものです。実際に旅行に行ってその温泉に浸かろうとしても、遠い場所であれば、その入浴剤で旅行した気分になれるのであれば安いものです。

しかし、入浴剤のパッケージを見てみると「本品は、温泉の湯を再現したものではありません」と記入されています。再現したものではないのに、どうしてその温泉地に行った気分になれるのでしょうか。私は、湯船に浸かりながら、入浴剤の空袋を眺めてみました。すると、あることに気付いたのです。それは、入浴剤を作っている会社の工夫でした。

①温泉地の文字のフォント(書体)。

習字で書いたようなフォントで、いかにも日本らしい文字なのでその温泉地の名前が目映えます。また、目立つように他の文章より文字も大きくなっています。

②その温泉地ならではの、パッケージの色使いや入浴剤の色・香り。

例えば、愛媛県にある「道後温泉」。愛媛県と言えば柑橘類。当然、パッケージの色も黄色や橙色で、入浴剤の色や香りも柑橘系で、愛媛県を想像できる仕組みです。

③補助の文章で気持ちを掻き立てる。

箱根の入浴剤には「山裾を包む森林の香り」と説明。山形蔵王には「たわわに実る林檎の香り」など、目をつぶるとその光景を思い出させる演出です。

文章やその書体で気持ちを引き込まれ、色使いなどの視覚効果で、もっと想像力を掻き立てられる。日本語の強さや凄さを実感し、人間が物を見たときの第一印象の大切さが、そこにはぎゅっと詰め込まれていると感じました。障害者支援でも、ピクトグラムや写真を使うことで、わかりやすい理解が進むことと同様です。みなさんも騙されたと思って入浴剤で旅行してみませんか？

<4月のトピックス>

先日、改正障害者差別解消法の説明会に参加しました。ここでは、あえてスクリーンに映された文字の書体が2種類で書かれており、濃さも違いました。視覚障害のある方は、書体や文字の濃さにより、見やすい見えにくいものがあるためです。これも「合理的配慮」です。合理的配慮とは、社会的な障壁を取り除くために必要な便宜のことを言います。上で紹介した内容は、相手がどう思い、引き付けられるかの方法論ですが、この合理的配慮も、障害のある人が、その場面をいかに快適に過ごせるか「思いやりの配慮や行動」であり、少し似ている気がしました。